

平成 29 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 教育学部

フリガナ 外 ヤスヒロ
氏名 宇土泰寛

研究期間 平成 29 年度

研究課題名 オンライン学習を活かして世界の子どもたちの学びをつなぐシステムの研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	宇土 泰寛	教育学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

日本では、新学習指導要領も発表され、新たな教育が求められている。また、「水」は、干ばつや砂漠化、洪水や巨大台風など、気候変動と深くかかわりながら、両極端化している。水・気候変動の問題は、地域的 - 地球的課題でもある。国連から SDGs のための教育が、2030 年を最終目標として求められている。本研究は、大陸間水プロジェクトの成果を土台に、世界の子どもたちが水と気候変動に関わる問題を様々な手法を用いて、大陸を越えてサイバー空間の地球子ども広場 (GKS) で学び合い、問題解決に向けての具体的な提案を作り、国際的な協同的活動として具体的支援や地域への提案等を実施する。まさに、グローバルな複眼的視野を通して、地球時代を生きる子どもたちの豊かな資質形成を図るためのシステム開発の研究である。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

本研究は、世界の各大陸の学校や現地の人々と協働し、地域探究を主とした「地域プロジェクト活動」と大陸を越えて拡張された学びのステージで、国際交流しながら学び合う「地球プロジェクト活動」を基盤に、表現ステージの「地球子ども広場 (Global Kids Square)」を通して、水・気候変動の問題解決へ向けた実践的な態度形成を図るという方法で進める。

- ①SDGs の「水・気候変動問題」と地域の実態調査と地域の郷土史研究や郷土博物館などのローカルな知を再発見する地域探究活動
- ②大陸を越えた新たな学びづくりのためのオンライン学習や映像動画の交流方法の計画と実践的研究開発
- ③各国の学び合いを基にした活動などの表現活動への協働的支援と地球子ども広場のフランス、ブルキナファソへの提示

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

本研究は、日本の教育動向と世界的な「SDGsのための教育」を開発するという課題を担った研究である。そこには、教育内容としての水・気候変動問題と教育方法としての多様なメソッド、多様なネットワークがあると同時に、国境を越えて、サイバー空間としての「地球子ども広場 (Global Kids Square)」での学び合いとそのシステム開発という大きな課題があった。これらの課題に対して、以下のような成果を得た。

①SDGsの「水・気候変動問題」と地域の実態調査と郷土史研究などを活かした地域探究活動

地域探究とフィールドワークをエリア研究として、以下の地域で実施することができた。

- 知多半島：半田市立博物館、水の生活館など、○日進・長久手：岩崎城歴史記念館、長久手市郷土資料室、天白川など、○木曾三川：海津市歴史民俗資料館、国立木曾三川公園など、○木曾路・飛騨：木材の伐採と水運、岐阜市歴史博物館、高山陣屋、飛騨高山まちの博物館など、○名古屋：新堀川・堀川・中川運河、水の歴史資料館、名古屋市博物館、海洋博物館など

②新たな学びづくりのためのオンライン学習や映像動画交流方法の計画と実践的研究開発

オンライン学習のスタディサプリでの学びとローカルな歴史的地域の探究をもとに、ショートストーリーを創り、劇化する。その劇を映像化する。今回は、ローカルな知とグローバルな知をつなげるテーマで実施することができた。「伊勢湾台風とスーパーハリケーン」「愛知用水とニューディール政策」「堀川、中川運河とベネチア」「木曾三川とオランダ」である。初めはつながりがないと考えていた学生たちも、探究活動からつながりの新発見を見出した。

③学び合いを基にした活動等の表現活動への協働的支援と地球子ども広場の各国への提示

これらの成果を2月、フランスのストラスブールに、日本とブルキナファソからも集まり、フランス会議を実施した。そこで、日本側の宇土がプレゼンテーションを具体的な映像を元に実施した。今までの経過や目的と理念の確認、SDGs等の共通理解などの教育内容とともに、今回は、共通の活動拠点としてのサイバー空間「地球子ども広場 (GKS)」を提案し、そのためのやり方を検討協議した。これに対してフランスの先生などもたいへん関心を示してくれて、次年度、実際の活動として、実施することになり、フランス会議の大きな成果となった。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①大陸間教育	②オンライン学習	③SDGs	④気候変動教育
⑤グローバルな知	⑥地球子ども広場	⑦Global Kids Square	⑧水問題

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

- 1) 宇土泰寛「水・気候変動問題からSDGs時代の教育を考える」日本国際理解教育学会、「水・気候変動プロジェクト」公開研究会、2017年5月20日(土) 椋山女学園大学
- 2) 宇土泰寛「水問題とSDGsのための多様な教育的アプローチ」日本国際理解教育学会第27回研究大会、2017年6月4日(日)、筑波大学
- 3) 宇土泰寛「気候変動教育とは～水・気候変動を考える授業をもとに」趣旨説明、「水・気候変動プロジェクト」公開研究会、2017年8月24日(木) 椋山女学園大学
- 4) 宇土泰寛・渡邊康「SDGsからみた水問題—大陸間教育交流をはじめとする多様なアプローチ」椋山女学園大学FD研修会、椋山女学園大学
- 5) 宇土泰寛「大陸間水・気候変動教育プロジェクト」フランス会議“The Water and Climate Change problem solving of Intercontinental Education Project meeting in France” 2018年2月17日、フランス・ストラスブール市